

拍手しよう、ブッシュ王朝は崩壊した

【訳者注】これは過激なブッシュ嫌いの文章とも思えるが、論者が、ブッシュ一族を知り尽くした、ほとんどブッシュ専門のジャーナリストであることを考えれば、単なる感情的な批評と取ることはできない。ここに述べられているのは、肌身で感じたブッシュ一族の恐ろしさである。一族が、一国のみならず、世界を地獄へ引いていこうとする恐ろしい図が浮かびあがる。これはぜひ、「映像証拠：父ブッシュがモンサントと遺伝子操作を共謀」「ブッシュ家のナチスドイツとのつながり・・・」と併せ読んでいただきたい。

By William Rivers Pitt

March 13, 2016, Truthou



ジェブ・ブッシュが最近、2016年大統領選挙戦からドロップアウトした。地球そのものが、安どのため息をついているのが聞こえる。彼が出馬をやめる決断をしたことを、肩をすくめ、うなだれて宣言したとき、80年間この国と世界を略奪し荒廃させた、一つの政治的王朝が、忘れられた教会の溶け落ちたろうそくのように、消えた。その暗闇の中に光がある。この惑星が、もはやブッシュ一族のことで苦しむ必要がなくなったからだ。確かに彼らは、ATMの近くの暗がりやうろつくスリのように、ひそんで生きるであろう。しかし、この次にブッシュ家の誰かをテレビで見るときは、彼らが自分の墓へ下りていくときである。

ブッシュ王朝の始祖であるプレスコット・ブッシュは、新聞紙上では善人のように見える。彼は第一次大戦に出征し、Planned Parenthood（家族計画）形成の推進者であり、United Negro College Fundの議長だった。しかし、メッキをはがすと地金が現れる。さまざまな報告や調査からわかってきたことは、プレスコット・ブッシュが関わっていた多くの会社、

彼が財産をつくった会社が、ドイツのナチ政権を財政援助し支持していたことである。この汚いカネが彼の息子や孫の役にも立った。

<http://www.theguardian.com/world/2004/sep/25/usa.secondworldwar>

ジョージ・H・W・ブッシュ（プレスコットの子）は、1988年に第41代米大統領になった。彼の権力への道のりは長く、紆余曲折していた。下院議員だったとき彼はベトナム戦争の大ファンだった。ニクソンは彼を国連大使に任命し、彼は、共和党国家委員会の議長をしていた間、ニクソンに対する多くの砲火を可能な限り吸収することによって、ウォーターゲイトの難局の中にいたニクソンに恩を返した。彼はチャーチ委員会の公聴会の後、CIA局長になったが、そこで何が起こっていたのか誰も知らない。彼は1980年の大統領選に出馬したが、ロナルド・レーガンというカリフォルニア出身の俳優に完敗した。

一年後、彼は副大統領となり、その時から事態は不穏になり始めた。中米ニカラグアには「コントラ」と呼ばれる民兵団がいて、彼らは、僧侶や尼僧を殺したりする反共活動を助ける現金を必要としていた。そこでアメリカは、彼らに応えるために、大量の兵器をイランに売ったが、イランはほんの数年前に、バイルートで300人近い米海兵隊を殺すのを助けた国だった。レーガン政権はこれを問われ、ブッシュ（父）は、彼のボスと同じように、すべてを否定したが、この政府の全閣僚が起訴され、あるいは直ちに有罪判決を受けた。ブッシュが1988年に、デュカキス（Dukakis）を破って、ついにトップの座についた後、彼が最初に書いたのは、それに関わったすべての者に対する赦免状だった。そして彼は罪を免れた。そしてなんと、彼は、それから25年たった今も我々がやっている、イラク戦争を始めた。ISIS（アイシス）かって？ まあこれは“ブッシス”と読んでもいいだろう。

そうしたすべての間に、ジョージ・H・W・ブッシュは息子たちを育てた。そして国家の屋根は傾いた。

ジョージ・W・ブッシュ（子）は、ディック・チェイニー（Cheney）に会って、パパの資金集めリストを彼の手に乗せた。役立たずのニュース・メディアと、誰も手の出せない最高裁のおかげで、彼はホワイトハウスに潜り込み、そして我々みんなに、いろんなおぞましいものを見せてくれた——ドナルド・ラムズフェルド、ポール・ウォルフオヴィッツ、ジョン・アシュクロフト、コンドリーザ・ライス（以上、閣僚）、クリントンに正反対の破壊的な、金持ちの税カット、9・11テロ、愛国法と安全保障/監視国家の恒久的設立、アフガニスタンでの戦争、イラクでの（2度目の）戦争、ハリケーン「カトリーナ」に襲われた大都市ニューオーリンズの完全な無視、国庫からの略奪、それに彼、彼の父、彼の祖父が、3代にわたって売りさばいたたわごとの上に築かれた財政破綻——。今、彼はシャワーを浴びながら自画像を描いている。おお、彼は子犬だって描けるのだ。現代史で最悪の大量殺人犯の一人

が、テキサスで陳腐な絵を描きながら、有罪になることもなく、坐っている。そして我々はみんな、彼の存在という単純な事実によって、体を小さくしている。

そして今度はジェブだ！ほんとに、どう言ったらいいのだろうか？彼のフロリダ州知事として政策は、画一的な共和党の馬鹿ばかしいものだった。彼は、芝草を刈りなさいと言いつけられた子供のように、おとなしく言うことを聞いて、大統領選に出馬した。彼はそれを望まなかった、その類のことは全く望まなかった。遠くから見ていてもそれははっきりわかった。ドナルド・トランプやテッド・クルーズのような者にさえ、選挙演説でなすすべもなく負けるということは、すべてを物語る。私はほとんど彼を気の毒に思った。

ジョージ・H・W・ブッシュは、私が9歳のとき副大統領になった。そして私は次の10年間を、ホワイトハウスから核ミサイルが飛び出すのではないかと、身を縮めて待っていた。私が最初に新聞に書いた論文は、彼のこと、パナマの侵略についてだった。私は彼の家族のことを毎日ずっと、5年間も取材してきたが、惨めな疲れ果てる仕事だった。ジョージ・W・ブッシュ（子）は歴史上、最悪の大統領だった。彼は私の何人かの友人を殺させ、怪我をさせた。世界は彼のおかげで炎上しているが、それはすべて、彼の友人のポケットを膨らませるためにやったことだ。彼が獄中にいないという事実は、刑法のあり方に問題があることを示している。彼は人殺し、泥棒、そして鉄面皮のウソつきである。その絵を描いてみせてほしい。

確かにこの家系には、ジェブの他に多くのブッシュがいる。この腕力の強い家系の後裔が背の高い草の中にひそんで、高い地位を狙っている。ユージン・オニールは言った、「現在も未来もない、過去が繰り返し起こるだけだ。」そんなことはわからない。それを考えただけで、私は生きる意欲がなくなる。しかし、彼らがいつかまた戻ってくるという可能性は否定できない。

しかしジェブが味わわさればかりの国家的屈辱は、願わくは私の安らぎとなってほしい。“ブッシュ”というブランドは、誰一人そこから飲もうとしない毒の瓶である。ブッシュ一族よ、別の道を探してくれ。やっとな、ありがたいことに、あなた方の権力の殿堂への暴走には歯止めがかかった。あの最後の悲しいブッシュが尻尾を巻いて逃げたとき、我々はすばらしい歴史の場面を目撃した。彼は、長い、汚らしい文章のピリオドになった。どうか拍手をしてほしい。

（ウィリアム・リヴァーズ・ピットは、*Truthout* の上級編集者、リード・コラムニストである。彼はまた、*ニューヨーク・タイムズ*と、国際ベストセラーに入った3冊の本を書いている——*War on Iraq: What Team Bush Doesn't Want You to Know*; *The Greatest Sedition*

Is Silence: House of Ill Repute: Reflections on War, Lies, and America's Ravaged Reputation—その他に、*The Mass Destruction of Iraq: Why It Is Happening, and Who Is Responsible?*)